名古屋市道徳研究会　小学校低学年・中学年研究部会

道 徳 科 授 業 研 究

令和２年10月20日（火曜日）
第５時限（13：45～14：30）
名古屋市立柴田小学校　２年１組教室

研究テーマ
みんなと創る楽しい道徳科の学習
―体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫―

（光村図書『きみがいちばんひかるとき』２年「ぐみの木と小鳥」より）

小学校低学年・中学年研究部会

みんなと創る楽しい道徳科の学習

―体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫―

Ⅰ　テーマ設定の理由

昨年度本部会では、子どもたちが「考えをもつことができる」「自分の考えを友達に伝えることができる」「友達の考えを受け入れることができる」姿を、子どもたちが授業の中で「楽しい」と感じている姿と考えた。そして、こうした姿が見られるように、1時間の道徳科の学習を子どもたちと教師が一緒に創り上げていくことで、「学級のみんなと一緒に考え、新しい発見をすることができて、道徳科の学習が楽しい」と、子どもたちが道徳科の学習を「楽しい」と感じることにつながった。そこで、今年度私たちは、子どもたちと教師が一緒に道徳科の学習を創り上げていくことで、子どもたち一人一人の学びが深まり、よりよく生きていこうとする心が育っていくと考え、実践に取り組むことにした。

小学校低学年・中学年の子どもは、何事にも興味・関心を示し、意欲的に行動する特徴が見られる。昨年度の研究からは、特に表現活動においてひと工夫を加え、教材中の人物の立場や行動、考え方や心の動きなどを追体験し、自分のこととして考える「道徳的行為に関する体験な学習」を取り入れた授業において、楽しいと感じながら学びを深める姿が多く見られた。

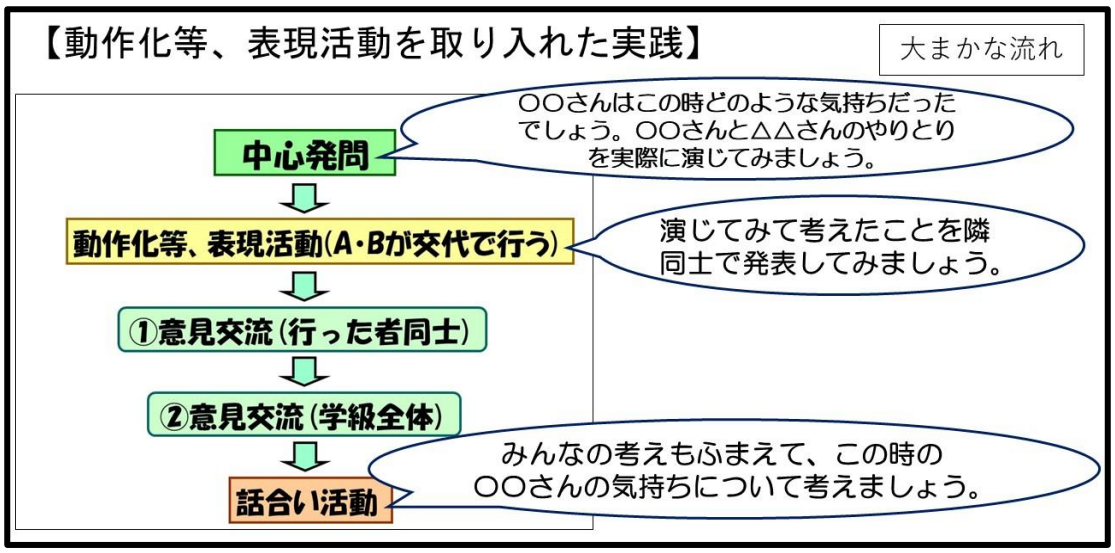
また、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度より教科化された道徳科の授業においては、質の高い指導方法の確立が求められている。この指導方法の一つとして「道徳的行為に関する体験的な学習」が示されている。「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」においては、「児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」（下線は引用者）という記述があるように、「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れた指導方法が挙げられている。

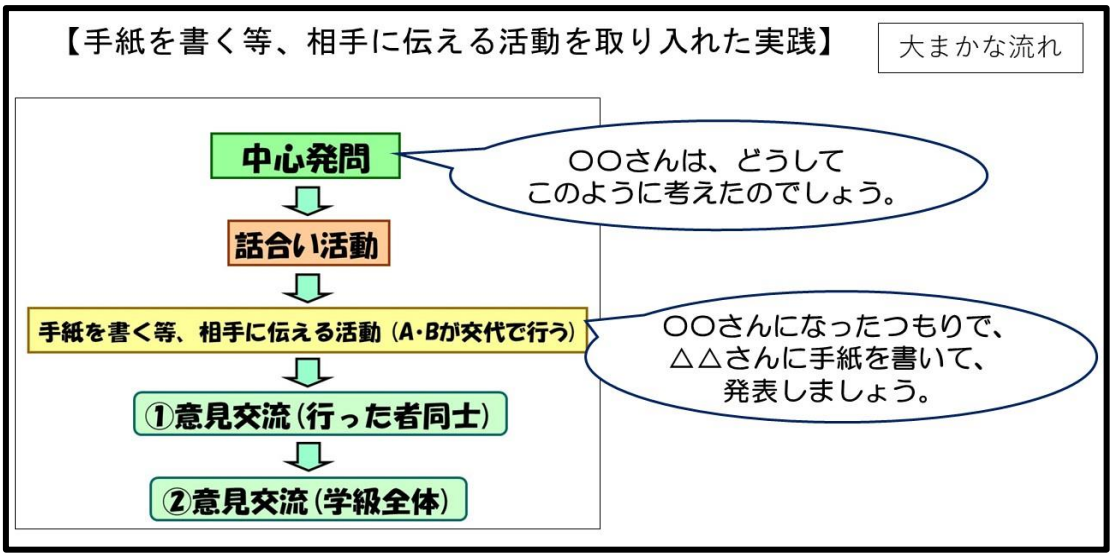
以上のことから、今年度の部会テーマを「みんなと創る楽しい道徳科の学習―体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫―」と設定し、研究を進めていくことにした。

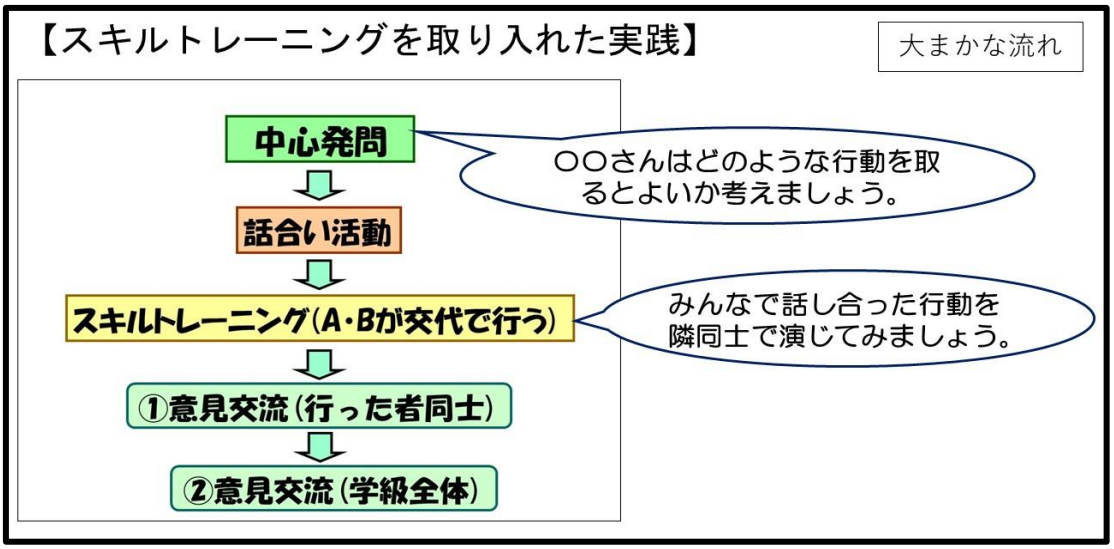
Ⅱ　体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫について

本部会では、「みんなと創る楽しい道徳科の学習」を目指して取り入れる「道徳的行為に関する体験的な学習」として、授業の中で「役割対話活動」を行っていくことを考えた。私たちの考える「役割対話活動」とは、動作化等の表現活動、教材中の人物に手紙を書く、スキルトレーニングなど、子どもたちに役割を与えて体験的な学習を行い、更に立場を交代して相手と双方向の対話を行う。そして、二人一組での話合い活動を行った後、学級のみんなと話し合うことで、授業で扱う道徳的価値に迫っていくものである。

【役割対話活動を取り入れた授業展開の例】







「役割対話活動」を取り入れた授業展開の例としては、以上のような、大きく三つのものが挙げられると考える。

今回の授業研究では、こうした「役割対話活動」の中で、「動作化等、表現活動」を取り入れた授業を提案し、「みんなと創る楽しい道徳科の学習」を目指したい。

第２学年１組　道徳科学習指導案

令和２年 10 月 20 日（火）第５時限（２年１組教室）　　指導者　水谷　祐基

１　主題名　　あい手を思いやって　　Ｂ 親切、思いやり

２　ねらいと教材

(1) ねらい

嵐の中でも病気のりすにぐみを届けた小鳥の姿を通して、「役割対話活動」により、相手のために行動することが大切であることに気付かせることで、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

(2) 教材

ぐみの木と小鳥（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき』２年）

３　主題設定の理由

(1) 指導の内容について

人は他者と関わりながら生きている。他者と関わるときには、互いの立場や気持ちを推し量って、相手はどのように思っているだろうと相手を思いやる気持ちが必要となってくる。思いやりとは、相手の立場に立ち、相手の気持ちを考えて、自分の思いを相手に向けることである。そして、相手を思いやる気持ちが伴った行為が親切として相手のために実行されたとき、円滑な人間関係が生まれてくる。

低学年の児童は、困っている友達の手助けをしたり、弟妹の世話をしたりすることはよく体験している。しかし、自己中心的な考え方が原因で、親切な行動がとれないことも多い。児童には、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に目を向けて、思いやりの心をもち、親切にしていくことができるようになってほしい。そこで、本時では、相手の喜びが自分の喜びになることを捉えさせることで、温かい心で接することのよさに気付かせたい。そして相手の立場に立ち、相手の気持ちを考えた思いやりの心が伴う親切な行動を行おうとする気持ちをもたせたいと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、自分より年下の子に温かい心で接しようとする思いをもっている子が多い。新しく入ってきた１年生に対しては、「校内の案内をしてあげたい」「一緒に遊びたい」など、上級生として何ができるか、様々な考えをもっていた。また、自分や友達の弟妹に対して、世話をしたことや親切にしたことなどを日記に書いていた。

しかし、同じ学級の友達に対しては、親切にできるのが仲の良い友達に限定されていたり、親切にした際に、見返りやお礼の言葉を求めたりする様子が見られる。また、まだ自己中心的な考え方をしてしまうため、困っている友達に対して「それぐらいのことで」と友達の立場に立てていない言動も見られる。

そこで、本時では、相手に対して温かい心で接することのよさに気付かせるとともに、そうすることで自分もうれしい気持ちになることを感じ取らせる。そして、年下の子や仲の良い友達に限らず、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、ぐみの木が、毎日来ていたりすが来なくなったことを心配して、小鳥に相談することから始まる。小鳥がぐみを持ってりすの所へ行ってみると、りすは病気で寝ていた。その姿を見た小鳥は、次の日も来ることをりすに約束する。次の次の日は嵐であったが、小鳥はりすの所へぐみを届け、そのぐみを食べたりすが元気になるという内容である。

嵐という困難な状況下で、「りすのことを思って飛び立とうとする気持ち」と「嵐が怖い。行きたくない、という気持ち」が小鳥の心の中で交錯する。小鳥が葛藤しながらも、ぐみを届けようと決意するまでの思いの過程を考えさせることで、りすに対する小鳥の思いが強くなっていったことを捉えられるようにする。

本時においては、困難な状況の中で葛藤する小鳥の思いを考えさせるために、ペープサートを使った役割対話活動を行わせることで、温かい心で接することのよさに対する多様な感じ方や考え方を十分に引き出したい。そして、授業の終わりに、自分たちのエピソードの中から、小鳥に共通する、相手のことを強く思う気持ちを考えさせることで、親切にすることのすがすがしさを感じ取らせることをねらう。

小鳥の行動を通して、自分との関わりが少ない身近な人に対しても、困っている人や弱い立場の人がいたら、温かい心で接し、親切にすることのよさに気付かせることのできる教材であると考える。

4　「みんなと創る楽しい道徳科の学習」にするための手だてについて

次の二つの手だてを取り入れることにより、部会テーマ「みんなと創る楽しい道徳科の学習」に迫ることができると考える。

(1) 体験的な学習（役割対話活動）を取り入れた指導方法の工夫

小鳥が葛藤する場面で、個人で考えた小鳥の思いを、隣同士で対話を行いながら意見交流する活動（役割対話活動）を取り入れる。ペープサートを使うことで「小鳥」役になりきらせる。小鳥の葛藤や決意の根拠を問う「ぐみの木」役と、その問いを受けて思いを伝える「小鳥」役に分かれて演じさせる。役割対話活動を通して、小鳥になりきる体験をさせながら小鳥の思いを考えさせることで、その後、話合い活動をするための共通の土壌をつくる。そうすることで、２年生の段階でも、友達と考えを共有しながら、自分の考えを振り返ったり、新たな考えに気付いたりすることができると考える。

(2) 板書により視覚化する工夫

隣同士で役割対話活動を行い、それぞれが考えた小鳥の思いを学級全体で発表し合った後、発表された思いを視覚化して板書にまとめる。その後板書の中から、小鳥を動かした一番強い「優しさ」を選択させる。

このように、みんなの考えを出し合って、そこから更に自分の考えを深める活動を行うことで、考えに自信がない児童や、考えに迷っている児童が、明確に自分の考えをもつことにつながったり、新たな考えに気付いたりすることができ、授業で扱う道徳的価値についてみんなで考えを深めていくことができると考える。

5　本時の指導

(1) 準　備　　補助黒板、パソコン、プロジェクター、教材提示用スライド、ワークシート、アンケート用紙、アンケートの内容をまとめたカード、黒板掲示用の場面絵（小鳥、ぐみの木、りす）、小鳥のペープサート（教師用、児童用 13 本）

(2) 関　連　　はしのうえのおおかみ（１年）
持ってあげる？食べてあげる？（３年）

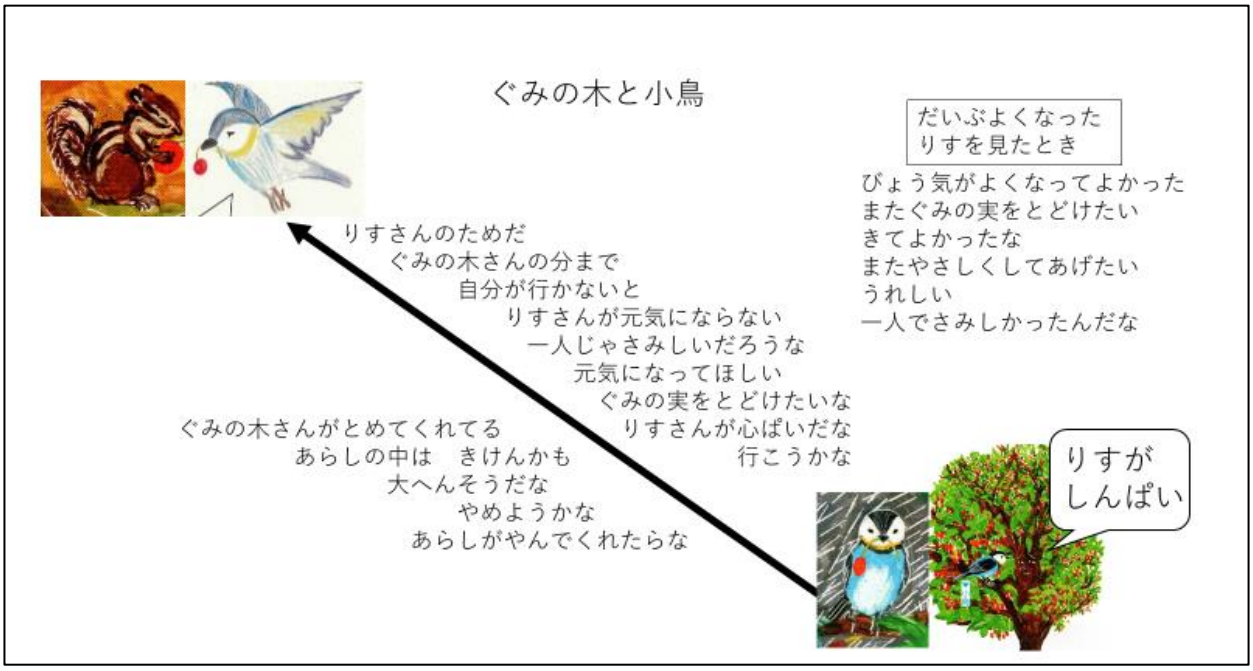
(3) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点
５分	１　優しくして、うれしかったことについて、アンケートの結果を知り、「優しさ」に目を向ける。	○　事前にアンケートをとり、「誰に、どんな優しいことをしたか、そのとき、どんな気持ちになったか」を書かせておく。 ○　アンケートの中で意見が多かったものや、児童の関心が高そうなものを選び、事前にカードに書いておいたものを提示する。
	発問：優しくして、うれしかったことには、どんなことがありますか。	
	【予想される児童のエピソード】 ・お母さんの肩をたたいてあげた　・お年寄りに席を譲ってあげた ・泣いている友達を助けてあげた　・友達に消しゴムを貸してあげた	
		○　誰に、どんな優しいことをしたかについて、児童のエピソードを発表する。そして、書いた児童を指名して、そのときの気持ちも発表させる。 ○　優しくした児童のエピソードをとり上げて称賛し、なぜ優しくすることができるのかを投げ掛けることで、温かい心で接することのよさに目を向けさせる。
	めあて：主人公の「優しさ」は、どんな「優しさ」か考えてみよう	
		○　「温かい心で接すること」を「優しさ」と捉えて、「優しさ」について考えることができるようにする。
33 分	２　教材「ぐみの木と小鳥」をもとに、小鳥の気持ちを考え、優しくすることについて話し合う。	
（３）	(1) 範読を聞く。	○　プロジェクターを用いて、スライド形式で範読を行う。 ○　範読後、登場人物の関係性やそれぞれの背景について押さえながら、内容理解の手助けをする。 ○　小鳥は、はじめは、ぐみの木の代わりにりすの家へ向かっただけであることや、二人は友達関係ではないことを押さえ、友情ではなく親切に目を向けさせる。
（７）	(2) ぐみを食べ、体の具合が良くなったりすを見たときの気持ちを考える。	○　次の日にも訪れた際、りすが「よくなった」と言っていることに着目させ、ぐみにはりすを元気にする力があることを押さえる。 ○　はじめは、ぐみの木の代わりにぐみを届けただけであったが、涙を目に浮かべてお礼を言うりすの姿を見て、うれしい気持ちや、りすを思いやる気持ちが小鳥に芽生えたことに気付かせる。

	発問：だいぶよくなったりすを見たとき、小鳥はどんな気持ちになりましたか。	
	【予想される児童の発言】 ・病気がよくなってくれてよかった　・またぐみを届けたい　・来てよかった ・また優しくしたい　・うれしい　・一人でさみしかったんだな	
	体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫	
(18)	役割対話活動 (3) やみそうもない嵐の中で、じっと考えてから飛び立つまでの間に、小鳥が考えたことを想像し、話し合う。	
	発問：じっと考えてから飛ぶまでの間、小鳥はどんなことを考えていたのでしょう。	
	【予想される児童の発言】 ・大変だけど、頑張ろう　・りすさんのためだ　・病気を治してあげたい ・元気になってほしい　・濡れたくない　・行きたくない	
		○　迷いつつも飛び立つことを決意するまでに、小鳥が考えていたことを想像させることで、小鳥がりすのことを思う強い気持ちに気付かせる。 ○　考えたことは、ワークシートにメモを取ってもよいことを伝える。
	指示：一人が「小鳥」役、もう一人が「ぐみの木」役になって、小鳥が考えたことを聞き合ったり伝え合ったりしましょう。	
		○　二人一組で「小鳥」役と「ぐみの木」役に分かれ、対話を行わせる。「小鳥」役の児童にペープサートを持たせることで、役割を明確にする。 ○　まず、教師が「ぐみの木」役となり、「小鳥」役の代表の児童とともにデモンストレーションを行う。 ○　児童同士の対話を通して、りすに対する小鳥の思いの強さに迫ることができるようにするために、「何を迷っているの」「それでも行くの」「なぜそこまでするの」など、問いの話型を提示する。 ○　役割を交代し、同様に対話を行わせる。 ○　じっと考える小鳥の場面絵から、飛び立つ小鳥の場面絵までの間に、発表で出された考えを板書することで、りすに対する小鳥の思いが強くなっていることを視覚的に捉えやすくする。 ○　「ぐみの木は何もしていないのですね」と児童の考えを揺さぶることで、ぐみの木にもりすを思う気持ちがあることや、小鳥がその思いも背負っていることに気付かせ、ぐみの木の思いにもふれるようにする。
	板書により視覚化する工夫	
(5)	(4) 小鳥を動かした一番強い「優しさ」と思うものに指をさす。	○　様々な考えの中から、小鳥を動かした一番強い「優しさ」はどれかを考え、ワークシートの「No.1」の欄に書かせる。

	中心発問：この中で、小鳥を動かした一番強い「優しさ」だと自分が思うものは、どれでしょう。	
		○　一番強い「優しさ」が選べなかったり、複数の考えに指をさしたりする児童がいた際にも、その理由を問うことで、どれもりすのことを思う小鳥の「優しさ」であり、それだけ思いが強いということを押さえる。
7分	3　小鳥やぐみの木のように相手を強く思う気持ちをアンケートから探す。	○　小鳥のように、相手を強く思う気持ちをアンケートの中から探したり、思い出させたりする。
	発問：小鳥さんのように相手のことを強く思う気持ちが、このアンケートの中にもありますか。	
	【予想される児童の発言】 ・お母さんが仕事で疲れて大変そうだから、肩をもんであげた ・友達が困っているから、僕が助けてあげようと思った	
		○　数人の児童に発表させ、親切にすることのすがすがしさに気付くことができるようにする。 ○　導入時における児童の気持ちと、小鳥がりすのことを強く思う気持ちに共通している点があることを押さえ、これからも身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を高める。
	評価事項 嵐の中でも病気のりすにぐみを届けた小鳥の姿を通して、相手のために行動することが大切であることに気付かせることで、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情が育っている。【発言・活動の様子】 □…　発言ができない児童には、掲示されたアンケートの中にある相手のことを強く思う気持ちを想像するように声を掛ける。 ☆…　相手のことを強く思う気持ちをアンケートの中から見つけられている児童には、自分がこれからしたいことを考えさせ、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を高める。	

(4) 板書案



(5)　アンケート用紙

どうとくアンケート　　なまえ（　　）

★「やさしく して、うれしかった こと」に ついて おしえて ください。

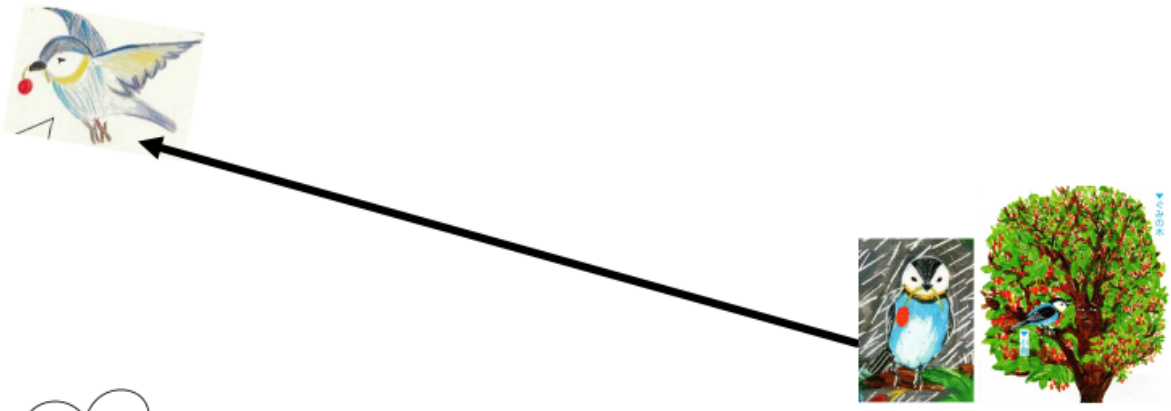
だれに どんなことを しましたか。

そのときに、 どんな 気もちに なりましたか。

---

(6)　ワークシート

ぐみの木と小鳥　　2年1くみ　　ばん（　　）



No. 1

（7）　教材文

ぐみの木と小鳥

山の上にぐみの木が立っていました。

ある日のこと、一羽の小鳥がやって来て、ぐみのみをおいしそうに食べました。ぐみの木は、そのようすを見ているうちに、友だちのりすを思い出して言いました。

「友だちのりすさんが、このごろ少しもすがたを見せないのです。」

「それではぼくが、ようすを見に行ってきましょう。」

小鳥が、ぐみのみをもってりすの家に来てみると、りすは、びょうきでねていました。

「ぐみの木さんにたのまれて、ぐみのみをもってきました。ぐみの木さんは、あなたのことを心ぱいしていましたよ。」

「小鳥さん、ありがとう。ぐみの木さんに、ありがとうとつたえてください。」

りすは、ぐみのみを食べてみました。なんともいえないよいあじが、口の中に広がり、少し力が出てきたように思われました。

つぎの日も、小鳥は、ぐみのみをくわえて、りすのところへとんできました。

「体のぐあいはどうですか。」

りすは、なみだを目にうかべて、言いました。

「おかげで、だいぶよくなりました。」

しばらくして、小鳥は、

「りすさん、では、またあしたね。」

と言うと、とび立っていきました。

そのつぎの日、小鳥は、あらしの音で目をさましました。ぐみの木は言いました。

「小鳥さん、りすさんのところへ行くのは、あらしがやんでからにしてくださいね。」

しかし、あらしはやみそうもありません。小鳥は、じっと考えていましたが、やがて、ぐみのみをくわえると、とび立っていきました。

はげしい雨と風が小鳥の羽に当たって、今にも地めんにたたきつけられそうです。しかし、小鳥は力をふりしぼってとびつづけました。

やっとの思いで、りすのところに小鳥がたどりつくと、りすは、

「こんなあらしの中を、よく来てくださいました。ありがとう。もうすぐ、ぐみの木さんに会えそうです。」

と言いました。

朝になると、あらしはやみました。小鳥は、ぐみの木のところへいそぎました。ぐみの木は、話を聞くと、

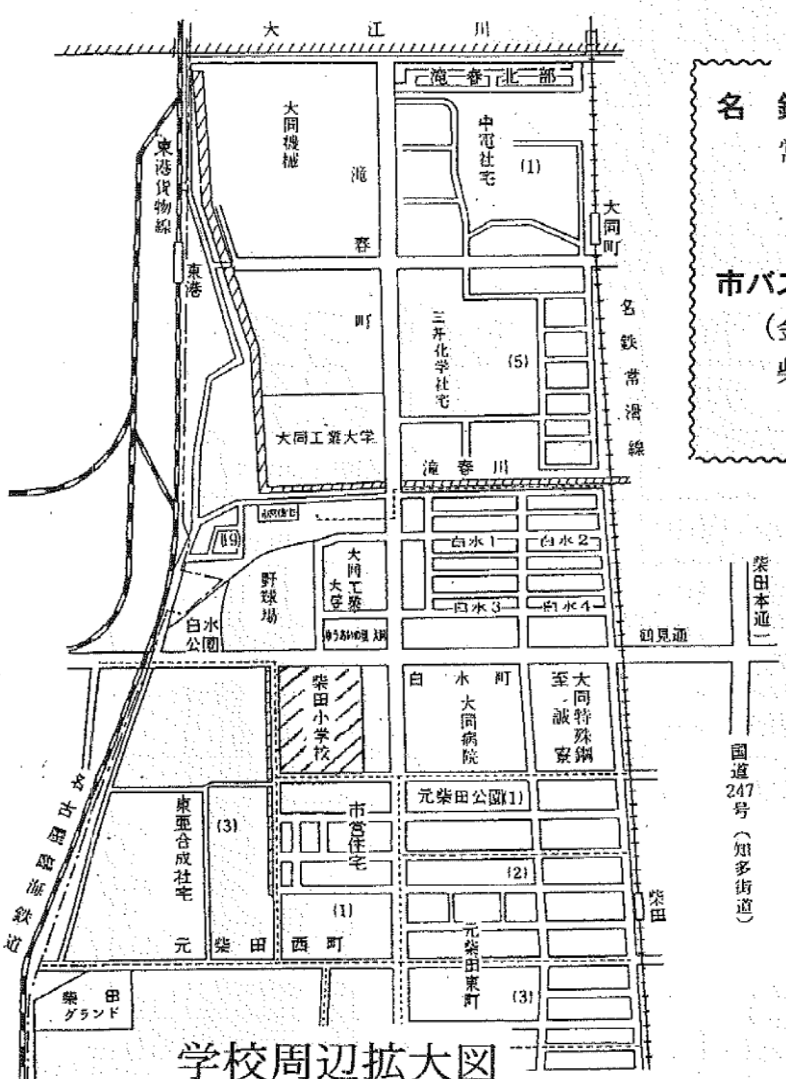
「りすさんは、もうだいじょうぶでしょう。小鳥さんがしてくれたことは、いつまでもわすれません。」

と言いました。やがて、小鳥は、ぐみの木にわかれをつげて、とびさりました。

出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき』２年

名古屋市立柴田小学校案内図

名古屋市南区白水町１９番地
TEL 611－0723

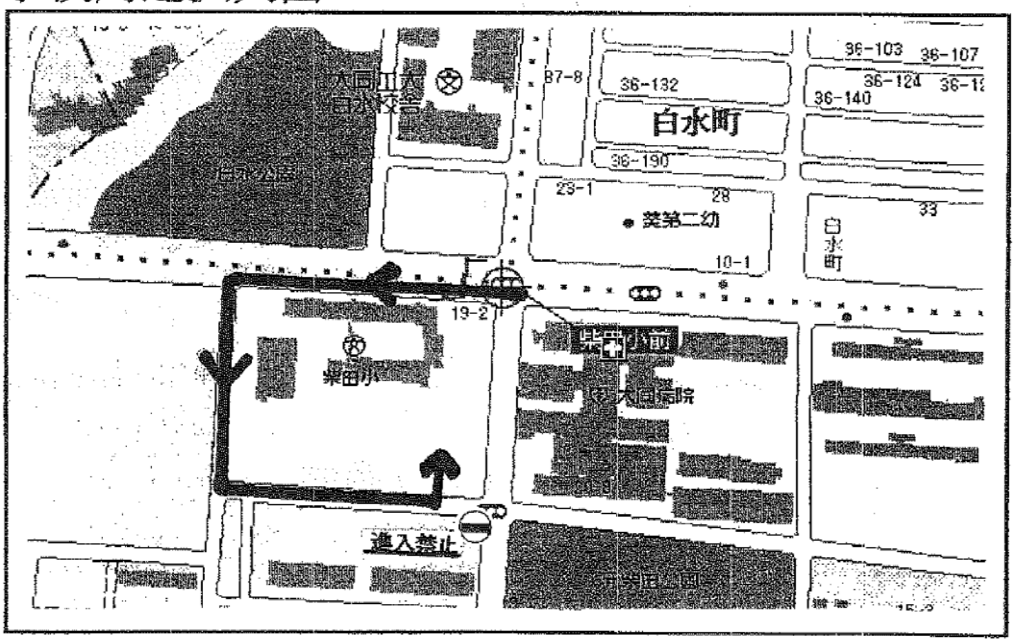


交　通　機　関

名　鉄

常滑・河和線柴田駅下車
北西５００ｍ

市バス

（金山－鳴尾車庫）
柴田本通１丁目下車
西５００ｍ

学校周辺拡大図